

公益財団法人 福岡アジア都市研究所 都市政策資料室

URC資料室だより NO.85 平成27年8月号

福岡アジア都市研究所は、
福岡市を中心に産学官が協力して
設立した研究機関です

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 福岡市役所北別館 6F
tel:092-733-5707 fax:092-733-5680 email: library@urc.or.jp

目次

◆URCニュース

- ①平成27年度 市民研究員受入事業開始・・・1
- ②福博：花まち研究会「福博：花の定点観測調査」
中間報告・・・2

◆FDCニュース

- 「FUKUOKA STREAM」開催報告・・・2
- ◆マスコミでみるURCの今・・・3
- ◆「資料速報 平成27年7月受入分」・・・別添

◆URCニュース

①平成27年度 市民研究員受入事業を開始しました！ 調整係長 馬場 孝徳

7月14日火曜日19時から、当研究所において、今年度の市民研究員委嘱状交付式並びに第1回定例会を実施しました。



今年度は、「アジアの先進モデル都市・福岡のまちづくり」というテーマを設定し、6人の研究員が活動を行います。

委嘱状交付式では、当研究所副理事長の猪上より、市民研究員一人ひとりに委嘱状が交付されました。研究員の皆さんは、引き締まった面持ちで委嘱状を手にし、これから来年3月まで、約9か月間の活動のスタートを切られました。

委嘱状交付式を終えたみなさんは、引き続き第1回定例会に臨まれました。研究員の皆さんが研究したいテーマを、それぞれ5分ほどで発表していただき、共有を図



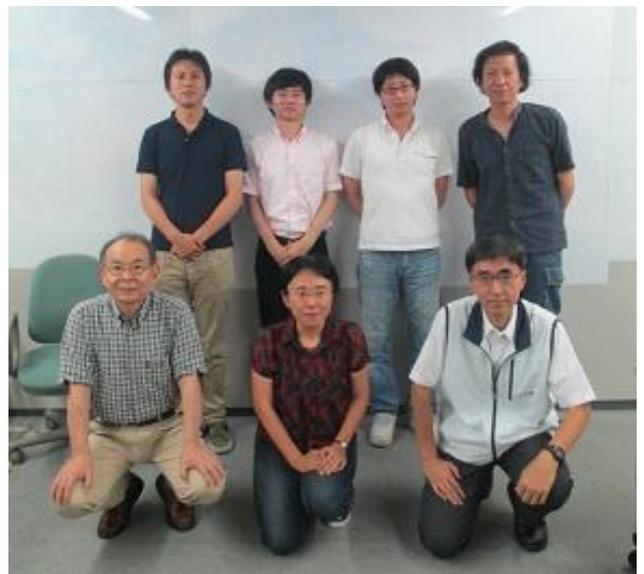
りました。

その後、岡田特別研究員による、各研究員のテーマに対する意見や、事務局から事業概要の説明、連絡事項等があり、第1回定例会が終了しました。

続いて第2回定例会は、約2週間後の7月30日木曜日に実施しました。

今回は、まず都市政策資料室の山崎司書から、資料室の説明や図書の貸出、各種データベースの活用などについて、説明を行いました。

次に、岡田特別研究員から、「福岡市の経済社会の



基礎知識」と題して、30分程度の講話を行いました。福岡市の特徴や成長要因、産業の現状などについて、統計を用いたわかりやすい内容となりました。

講話の後は、各研究員が考えているテーマについてのディスカッションや、研究手法についてのアイデアを出し合う時間が設けられました。今年度の特徴として、都市デザインよりもソフト面の各種都市政策について研究を希望する方々が集まりました。描いている研究内容が近い人同士が、共同で研究を進めたり、研究員間で補完し合いながら進められないか、といった議論が活発に行われ、たいへん有意義な時間になりました。

した。

8月以降も、毎月2回定例会を実施し、11月には中間報告会を、3月には最終報告会を予定しています。

今後の活動については、資料室だよりや当研究所 HP 等で、随時報告していきます。 写真出展：URC 撮影

②福博：花まち研究会「福博：花の定点観測調査」中間報告を行いました！

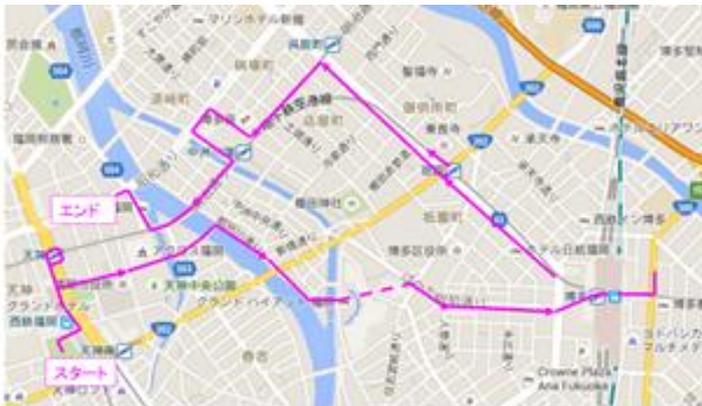
「福博：花のまちづくり研究会」は、その前身である平成21年度市民研究員の研究活動以来、6年目を迎えています。

現在、当研究会の一環として、「花の定点観測調査」を行っており、8月3日にその中間報告を行いました。

花の定点観測調査は、福岡市都心部の主な花壇等について、1年間を通じて、どのように演出、維持管理されているかを写真等により継続的に観察するものです。ルートは、警固公園～天神～市役所～中央公園～あい橋～清流公園～キャナルシティ～駅前通り～博多駅～大博通り～リバレイン～昭和通り（赤煉瓦館）の4時間コース、ルート沿いの35スポットの花壇等



角度、天候、影の有無等により、同一条件で実施することの困難さを実感しました。今後、8月～来年2月まで継続することとしていますが、次の春（3月～5月）まで延長することも検討しています。



を対象にしています。各月、中旬の一日を観測日とし、これまで、3月～、7月の各月観測日と、花しるべ（3月末～4月上旬）期間を加えています。並べてみると、例えば桜の花を背景にした花壇は趣がぐっと変わることや、途中から花が草になっている場合等が分かります。今回、中間報告により、6スポットの追加、また、出来るだけ都市景観の中で花を観ること等の意見が出されました。又、写真による定点観測は、焦点や



写真出展：上 URC撮影 下 藤原正教 事務局長撮影
(福博：花まち研究会 藤原正教 事務局長)

◆FDCニュース

「フクオカ・ストリーム」を実施しました！



福岡地域戦略推進協議会が福岡市とともに「グローバル創業・雇用創出特区」を獲得してから1年。2015年5月11日より、行政・民間・NPO・市民それぞれの様々なチャレンジにより、福岡に変化が起こっているということをフクオカ・イノベーション・ウェーブと称して示してきました。7月7日に開催した「フクオカ・ストリーム」では、その波を、ここから大きなうねりにしていくという思いを共有し、福岡に住む誰もがまちの将来像を思い描き、その担い手として宣言するイベントとして開催しました。



まずは波をモチーフとした動画から、イベントはスタート。次にセッション1「福岡だからできる暮らし方」では、起業家やNPO関係者などが市民一人ひとりが福岡での暮らしをよくするため、福岡だからこそできる働きかた、「やりたいこと」の叶えかたや、実施する方法を語り合いました。次に、パブリック・ライトニング・トークと称して、特区一周年を契機に、自らが担い手となって福岡の未来づくりに向けた宣言をしたい、約10名のエレベーターピッチを実施。どの方も魅力的な福岡の未来を語りました。

最後に、セッション2「福岡の未来のまちづくり」では、高島市長もふくめてのメンバーで、市民一人ひとりが夢を描き、思いを寄せ合うとともに、「天神ビッグバン」など国家戦略特区を上手に活用していくにはどのようなことができるかといったディスカッションを行いました。

累計300名以上の方と思いを分かち合って、会を終えることができました。



*写真出典：FDC撮影

(原口唯 FDCスタッフ)

マスコミでみる「URC」の今！—最近1か月の情報を中心に—

◎新聞

(2015/8/1 西日本新聞 朝刊 27p)

チンチン電車が走った街 因幡町に飾り山笠あった 博多を語る会例会 思い出話が次々 映画の帰りは湖月のカレー

市民研究員 OG 池田節子さんが例会に参加、思い出を語る。

(2015/7/31 秋田魁新報 朝刊 24p)

<アート足跡>KAMIKOANIプロジェクト(下)[休止決定]再開へ模索 これから

市民研究員 OB 藤浩志さんがプロジェクトを評価

(2015/7/31 秋田魁新報 朝刊 24p)

上小阿仁村のKAMIKOANIプロジェクト 芸術イベント、あす1日開幕 県内外から出展、講演も

市民研究員 OB 藤浩志さんが講演会の講師を務めるイベントの開催予告

(2015/7/31 熊本日日新聞 朝刊 6p)

熊本市の開業率 5.5% 14年度全国21都市で7位

当研究所発表の開業率が引用される。(※印=以下同じ)

(2015/7/31 産経新聞 26p)

“開店準備”空き店舗で 福岡市など「創業応援塾」設立

当研究所調査の新規事業所数が引用される。

(2015/7/31 西日本新聞 朝刊 29p)

親子街並み探検隊

当研究所 OB 大塚政徳さんが事務局長を務める唐津街道姪浜まちづくり協議会のイベント予告

(2015/7/29 西日本新聞 朝刊 28p)

都市圏開業率 7.0% 福岡アジア都市研発表「特区で創業機運」*

(2015/7/29 日本経済新聞 朝刊 35p)

事業所開業率 2年連続首位 福岡市、民間まとめ *

(2015/7/28 毎日新聞 地方版 23p)

遊ナビ：美術/東京

市民研究員 OB 藤浩志さんが Useless Station を開催 かえっこバザールも開く。

(2015/7/19 信濃毎日新聞 朝刊 32p)

まちづくりの芽、老朽ビルから 長野の解体計画県営住宅で見学会

市民研究員 OB 吉原勝己さんの講演会報告

(2015/7/18 上毛新聞 朝刊 19p)

おもちゃ交換で交流 渋川で美術家アピール

市民研究員 OB 藤浩志さんが主宰する「かえっこバザール」をPR

(2015/7/18 西日本新聞 夕刊 2p)

わたし活性化計画 気になる若者の人生観 他人と比較せず自分と向き合っ

FDC フェローの西田明紀さんが執筆

(2015/7/18 西日本新聞 朝刊 29p)

福岡県/まちナビ=福岡虹の会 7月公開例会

野田順康特別研究員が21日「不安定化する国際社会と女性」と題する講演予告

(2015/7/11 日本経済新聞 朝刊 31p)

リージョンワークス代表社員 後藤太一氏 肖像~九州・沖縄 理想の都市 福岡に描く 米ポर्टランド

街づくりに参画 評価は高いが独自文化希薄

当研究所 OB で FDC 初代事務局長後藤太一さんが紹介される。

(2015/7/5 西日本新聞 朝刊 30p)

行財政改革 手法探る 17日に産官学シンポ 福岡女子大で開催 参加者を募集

当研究所 OB で現在企画委員の谷口博文さんの講演予告

(2015/7/3 毎日新聞 朝刊 23p)

きんしゃい はかた 街は博物館 ⑭博多小女郎 美人遊女の武勇伝

市民研究員 OG 田中美帆さんがコメント

◎雑誌

(2015/8/1 Web Designing vol. 169)

15p もと水力発電所の美術館に、トリエンナーレならぬ「トイレンナーレ」 “ここでしかみられない” アート見

市民研究員 OB 藤浩志さんが出展するイベントの開催予告

(2015/7 九州マーケティング・アイズ 2015 夏 vol. 74)

14~16p アジアと九州の今 フィリピンの現在・過去・未来

当研究所 OB 山本公平さんが執筆

(2015/7/1 西日本文化 2015 年 7 月号 No.475)

4~5p front essay 「博多三娼図」

市民研究員 OG 田中美帆さんが執筆

編集後記：暑中お見舞い申し上げます。

天神は今、天神涼園地の真っ最中。元気な子どもたちの歓声に溢れています。子どもって、楽しいと走ってしまうものなんですね~そんな風景に癒されています。熱中症に気を付けられ、子どもたちに負けず、元気に夏を楽しみましょう。

6月22日、専門図書館協議会の全国研究集会で「21世紀の資本」の翻訳者山形浩生さんのお話を聞く機会がありました。帰って検索してみると、当資料室には5つほど山形さんの訳本があり、「アメリカ大都市の生と死」、「都市は人類最高の発明である」もそうでした。その中に「明日の田園都市」のインターネットで公開された翻訳がありました。当時のM研究主査に



「やっとまともな訳が出たよ!」と教えていただいて、ダウンロードしたものでした。その時、M研究主査はそれを持って、イギリスまで田園都市を見に行かれました。

山形さんは、ご講演の中で「あまりお金にならなくても、面白ければ(翻訳)する。」と言われていましたので、私の中で、「山形さんの訳=面白い(かもしれない)」という選択肢が加わりました。 写真出展：URC 撮影 (崎)